地域の歴史、風土、
生物多様性に
配慮した「もの」「こと」
づくりを行います。

みどりでつなげる
公園の生物多様性づくり

活動時期　2022 年 5 月 27 日～ 2023 年 5 月 15 日

活動場所　都立猿江恩賜公園南園（東京都江東区）

東京都は自然地の減少、侵略的外来種といった都内の課題や、大都市東京が世界の生物多様性に与える影響などを踏まえ、令和5年4月に『東京都生物多様性地域戦略』を改定しました。それを踏まえ都心の様々な緑地を創り・維持してきた私たちだからこそ引き出せる『みどりの価値』を考え、工事で施設を造るだけではなく、人が密接に関わり公園の生物多様性づくりが守られていく環境を創りました。

活動の目的
東京都が掲げる『多様な生き物が生息する都立公園づくり』に基づき、生物多様性保全整備工事を行うとともに、みどりが持つ多様な生物の居場所としての機能が本公園に深く根付くように地域住民や団体、教育機関、行政、公園管理者がパートナーシップを持って関われる基盤づくりを行いました。

取り組み・成果
ニホンアカガエルが生息する環境づくり、カワセミが営巣・採餌できる環境づくり、多様なトンボ類が生息できる環境づくりなど 6 つのテーマを持ち工事に取り組みました。各パートナーに対し、工事の進捗説明や課外授業を行い関係性を築きました。人手が必要な生物調査や捕獲では協力を得ました。2023 年 1 月には中間報告会を開き、各パートナーとの協力体制をしっかりと結びました。

今後の目標・課題
本工事は、設計で考え上げたコンセプトを工事で具体化することができました。しかし、多様な生物が生息する環境を維持していく事が最も重大なことです。そのために地域住民や団体、教育機関、行政、公園管理者が密接に関わる関係づくりが重要です。今後も各パートナーとともに生物多様性を維持していく取組を進めます。

活動実施会社　株式会社グリーバル

1 地域住民や団体、教育機関、行政、公園管理者とともに力を合わせて行った生物救出イベント時の集合写真。
2 ニホンアカガエルが行き来しやすい湿潤な草原を維持するための木道の整備。　3 カワセミの営巣用の土手造成。
4 多様なトンボが生息するための浅瀬と関放水面を分ける租朶柵の設置。　5 近隣小学校の生徒に向けて行った生物多様性についての課外授業。
6 近隣高校の生徒たちと行ったカエルの産卵調査。　7 各パートナーと行った猿江恩賜公園生物多様性保全整備工事中間報告会。

1 農業指導をするのは地域のベテラン農家さん。　2 昔は大月の家庭に必ずあったうどん製麺機。郷土文化に触れる貴重な機会です。
3 竹を加工して竹鉄砲を作ったり竹トンボを作ったり、ボランティアスタッフが丁寧に子供たちに教えます。

地域のシニア層の公園管理運営参画と里山ぐらしの再現

活動時期　2022 年 10 月～継続中

活動場所　桂川ウェルネスパーク（山梨県大月市）

桂川ウェルネスパークは失われつつある里山ぐらしを現代に継承する公園で、年間を通して農作物の育成、収穫、加工体験を行っているほか、残渣の堆肥化、クリーンエネルギーの使用など低環境負荷の公園管理を行っています。竹の水鉄砲づくりなど、自然資源を活用した遊びやクラフト体験を提供する際には、地域のシニア層に講師として協力いただいており、資源を有効活用して豊かに生活する知恵を現代の子どもたちに伝える場となっています。

活動の目的
農業従事者の減少、高齢化といった社会問題が進む昨今、定年後も地域で活動を行うシニア層に着目し、公園の管理運営の様々な面で地域の人材が輝ける場を創出しています。地元の特色を取り入れた作物管理、味噌やたくあんなど、以前はどの家庭でも行われていた加工食品づくりなど、様々な面でアドバイスを仰いでいます。

取り組み・成果
昔の文献を読むのではなく、シニア層から子どもたちへ直接伝えることで、世代を超えた交流が生まれる機会になっているほか、大月という土地に足を運ばなければ体験できないプログラムを提供することができています。地域住民にとっても、これまで培ってきた生活の知恵や地域の歴史を発信、継承する場となっています。

今後の目標・課題
限られた自然資源で豊かに生活する知恵や、食の大切さを学ぶ機会を子どもたちへ伝える場を提供し続けます。大量消費社会を生きる現代の子どもたちが、「持続可能な社会」という世界規模の課題に関心を持ち、地域のシニア層も活動を通して自己発現できる場を創出することで、様々な地域課題や社会課題の解決に繋げていきたいです。

活動実施会社　株式会社アメニス山梨

1 捕獲達成者には缶バッチが贈られるほか、「マスター」として手配書を手にした写真を園内掲示板に張り出しました。
2 目撃情報や達成者情報は園内掲示板にて日々更新され、注目を集めました。　3 ポスターや捕獲手配書を掲示し参加者を募りました。

自然観察会スピンオフ企画
尾久の原バウンティハンター

活動時期　2022 年 8 月～ 2022 年 10 月

活動場所　尾久の原公園（東京都荒川区）

「夏休みの自由研究を東京 23 区でクマゼミを探すというテーマにしたものの荒川区だけは見つからない。尾久の原公園にクマゼミはいますか？」という親子からの問い合わせをきっかけに、クマゼミをはじめ園内や荒川区内では確認例の少ない昆虫を賞金首に見立てた「尾久の原バウンティハンター」を利用者全員を対象に開催しました。捕獲の報酬は特製缶バッジ。期間中の対象種全ての捕獲成功者には特製コインを用意しました。

活動の目的
園内や荒川区内では珍しいと言われる昆虫をターゲットとし、参加者自ら探すことで身近な環境にすむ生物に対して生きた知識を身につけること、企画に参加することで生き物や環境と正しく向き合う機会を作ることを目的としました。

取り組み・成果
誤認を含めれば 100 名を超える方々が発見報告にサービスセンターを訪れました。正しい知識や地域特性を踏まえた生き物とのふれあいの場を、年齢や性別を問わず通常の自然観察会よりも幅広い層に提供することができました。

今後の目標・課題
参加者の生き物への興味を高め、より深くしていくためには、適切なターゲットの設定や情報の提供、解説が管理者には求められます。企画の継続、より一層の展開には、管理者が今以上に正しく園内の生物環境を知ることが課題となってきます。